

「地震に負けない家」

いつ、どこで起こるかわからない、地震の国。
だから、家族の安全を守るために、そなえる。



発売以来、**全壊0棟**[※]の実績
さらなる安心のための進化

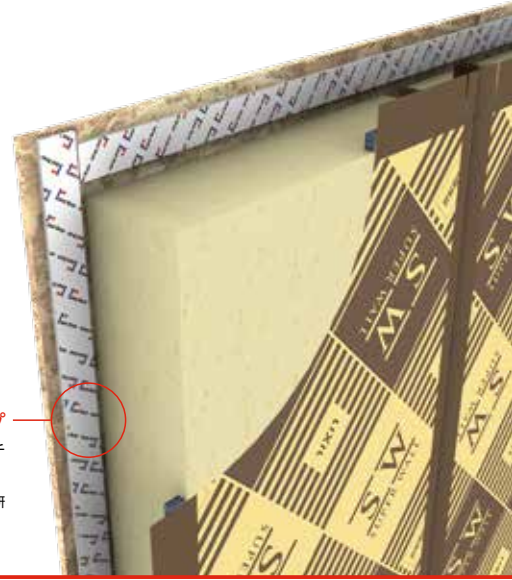
制震スーパーウォール

●出典：地震調査研究推進本部（文部科学省研究開発局地震・防災研究課）発表資料より「全国地震動予測地図」を基に一部改変しています。（2012年1月起点のデータ）
※スーパーウォール工法が誕生した1995年から現在（2013年10月）まで、スーパーウォール工法住宅の地震による全壊の被害報告はありません。（株式会社LIXIL調べ）

特許出願中

SUPER WALL 制震スーパーウォール

高耐震な住まいとして、発売以来、地震による全壊ゼロの実績を誇る「スーパーウォール工法住宅」。そのさらなる安心のために、制震機能を取り入れた「制震スーパーウォール」を新たに開発しました。大きな地震、くり返す余震から、家族の安全を守る、地震に負けない家を実現します。



制震テープ

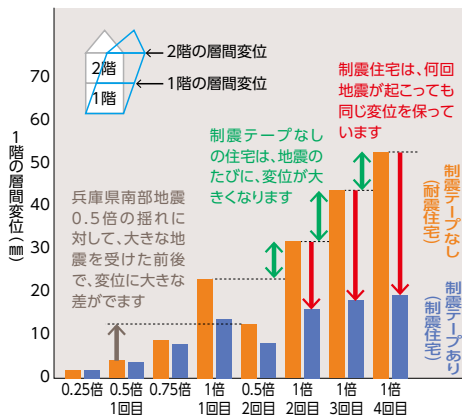
制震テープは、高層ビル用の制震装置に使用されているブチルゴム系素材を住宅用に加工した粘弾性体のテープです。

●制震テープは、防災科学技術研究所、東京大学、清水建設の共同研究により開発された、アイディールブレン(株)の製品です。

安心の3大メリット

1 くり返しの地震に強い

制震でない住宅は、大きな地震に遭った後、揺れの回数が増えるごとに建物の変形が大きくなります。それに比べて制震住宅は、何度揺れが来ても変形が進みにくく、本震だけでなく、くり返しの揺れ、余震にも強い住宅が実現できます。



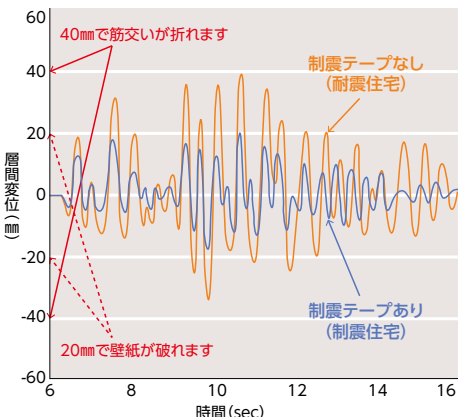
兵庫県南部地震に対する入力倍率と実験回数

※防災科学技術研究所での実物大振動実験結果より

2 建物の変形量を約1/2に低減*

地震による建物の揺れ幅を比較してみると、制震でない住宅の揺れ幅に比べ制震住宅の揺れ幅はおよそ1/2。制震でない住宅が40mm変位して筋交いが折れるのに対して、制震住宅は20mmの変位で壁紙が破れる程度の被害という実験結果となりました。

※プランや地震の揺れによって、変形量の低減は異なります。

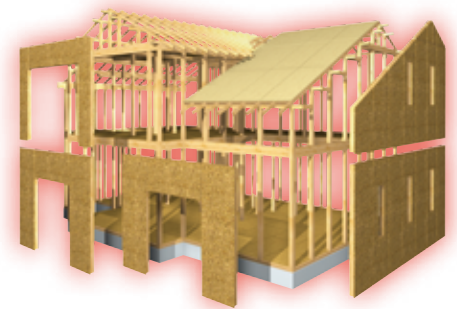


1Fの層間変位の時刻歴 (1倍・2回目)

※防災科学技術研究所での実物大振動実験結果より

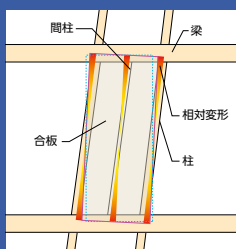
3 家がまるごと制震装置

制震装置を部分的に配置する制震とは異なり、建物の構造パネルに制震機能が加わることで、建物の一部に負荷がかかることなく、家全体で揺れを抑え、大きな地震に対しても粘り強い住宅となります。



制震スーパーウォールのメカニズム

大地震によって建物が振動すると、柱・梁などは変形しますが、構造用パネルは変形しません。このズレが釘抜けや緩みを起こす原因ですが、制震スーパーウォールは、ズレを利用することで、建物を地震に強くすることができます。



制震テープなし

釘の曲がりが大きく、釘まわりの面材の穴あき範囲が広がり、強度が低下します。



制震テープあり

制震テープにより、柱とSWパネルが強固に固定され、釘の曲がりを抑えます。

制震テープが地震の揺れのエネルギーを熱エネルギーに変えて吸収します。

株式会社 LIXIL

会社や商品についての情報の確認は、LIXIL公式サイトまで

<http://www.lixil.co.jp/>

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CADデータなどの各種情報は、上記公式サイトからご確認ください。

●仕様は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
●本カタログ掲載内容及び写真・図版の無断転載はかたくお断りします。

販売地域: 東北以南

